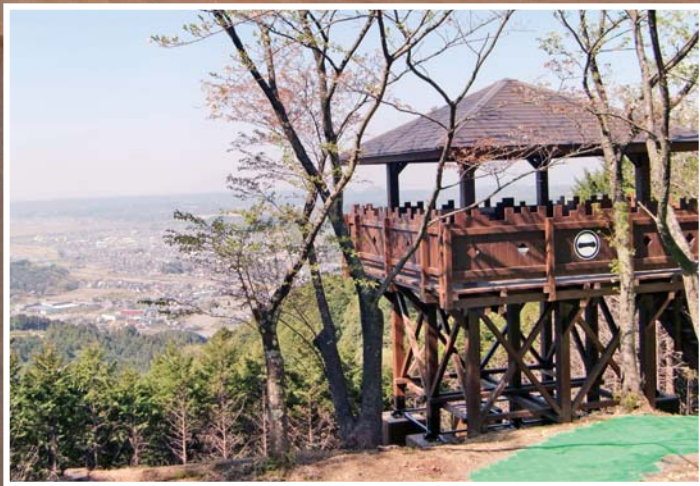




もいまち

議会だより



写真／「遠くまで見えるよ！ 天方城跡展望台から」～森幼稚園園外保育～

《主な内容》

23年度予算

一般会計64億800万円！

2P

一般質問

森町まるごと博物館！ 他

7P～11P

森町議会は、3月定例会を3日から25日までの会期23日間で開催しました。

23年度予算をはじめ条例や22年度補正予算など、提案された32議案を審議しました。

また、森町まるごと博物館構想、森・掛川IC周辺まちづくり、職員ボランティア、特別支援学級の放課後児童クラブ、森町の観光産業、東日本大震災への対応、住宅リフォーム助成制度、森町ブランドの全国発信、町づくり拠点について、9人が一般質問しました。

万円!

平成23年度予算

主な新規事業

一般会計は、7.3%増加し、**64億800万円**で6年ぶりに60億円を超えました。歳出では、**土木費**が44%増加し、5億2,515万2千円です。歳入では、**国庫支出金**が20.1%増加し、5億4,296万7千円、**県支出金**が33.8%増加し、5億5,171万9千円です。

都市再生整備計画事業
森（本町以北）・天宮・向天方・城下地区を対象に、23年度からの5年間で期間とします。23年度は、向天方・町道沢下中川原線改良、天宮・町道本丁大上線、町道天宮内房線改良、区画整理地内天宮公園敷地造成などが行われます。（9,632万円）

愛光園サテライトを助成
県補助金を受けて、天宮に建設される特別養護老人ホームの施設整備を助成します。（1億3,300万円）

こども医療費助成を拡充
入院に加え通院も助成します。（4,915万円）

放課後子ども教室を新設
子どもの放課後の安心・安全のため、地域の協力を得て三倉小学校に9月から開設します。（255万2千円）

公立森町病院事業会計
は、前年度より5億8,270万3千円、19.7%増加し、**35億3,470万4千円**です。（収益的支出と資本的支出の合計額）

主な増加要因は、**家庭医療センター建設**です。建設費3億2,000万円、医療機器などの整備費8,000万円の合計4億円が事業費で、このうち2億円は県から支援されます。

森川橋を町のシンボルに
新しい森川橋に、黒御影石の親柱4基を設置します。（999万6千円）

駐車場を拡張
太田川親水公園の北側を舗装し、約100台を収容する駐車場にします。（1,000万円）

消防指令センター新設
磐田市福田支所に指令センターを新設し、中東遠で消防指令業務の共同運用を始めます。（1,434万3千円）

城ヶ平公園に駐車場整備
展望施設の完成により観光客の増加が見込まれるため、隣接地に駐車場を増設します。（464万8千円）

〈当初予算における主な歳入・歳出項目の推移〉

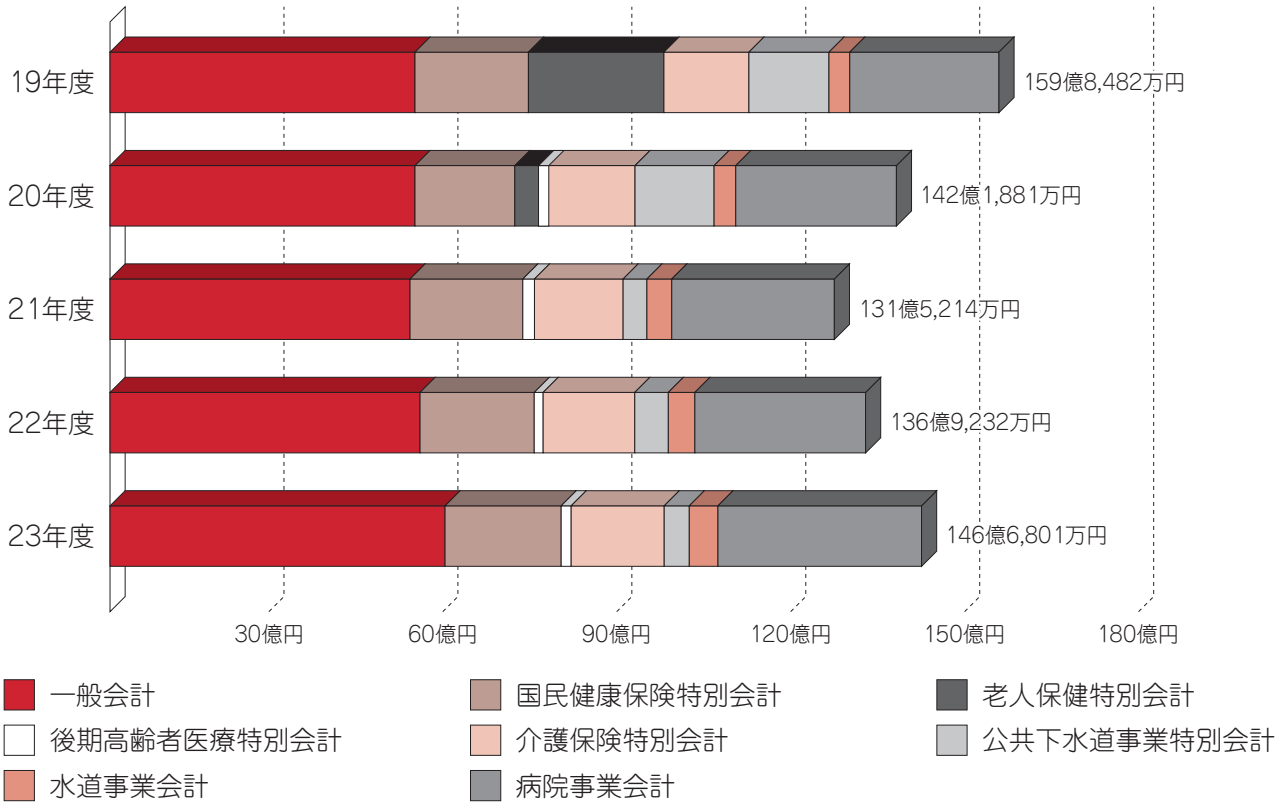
(万円未満四捨五入)

歳入項目	23年度	22年度	21年度	20年度	19年度
地方交付税	13億4,000万円	12億8,000万円	11億8,000万円	12億3,000万円	12億500万円
国庫支出金	5億4,297万円	4億5,191万円	2億3,438万円	2億2,231万円	2億3,160万円
県支出金	5億5,172万円	4億1,220万円	3億3,491万円	3億2,719万円	3億2,003万円
繰入金	1億4,436万円	8,287万円	1億9,777万円	1億9,907万円	2億7,277万円
(うち財政調整基金繰入)	1億0,000万円	5,000万円	1億4,000万円	1億5,000万円	2億1,000万円
町債	6億1,420万円	5億9,890万円	4億8,560万円	3億3,410万円	3億5,680万円
歳出項目	23年度	22年度	21年度	20年度	19年度
民生費	19億1,136万円	16億8,991万円	14億4,458万円	14億4,844万円	15億1,269万円
衛生費	10億9,104万円	10億1,967万円	9億7,748万円	9億6,176万円	9億1,860万円
教育費	7億4,502万円	7億5,459万円	7億6,669万円	7億4,961万円	7億4,247万円
総務費	6億9,388万円	7億3,689万円	7億2,166万円	7億1,537万円	7億2,289万円
土木費	5億2,515万円	3億6,468万円	3億8,587万円	4億549万円	3億7,478万円
農林水産業費	1億5,305万円	1億6,330万円	1億8,633万円	2億601万円	3億873万円
公債費	6億4,271万円	6億3,559万円	7億6,558万円	8億5,094万円	8億2,725万円

平成23年度予算

一般会計64億800

〈会計別予算の推移〉



※ 各会計の歳出予算額を単純にグラフ化したものであり、各会計間の繰入・繰出金の調整はしていません。

討論

一般会計予算

〔賛成〕

ことも医療費扶助の拡大は、要望に応えるものである。

土木費増額は、生活環境の改善、地域経済の向上に役立つ。

三倉小学校放課後子ども教室は子育て・就労支援に役立つ。西田議員

福祉・医療・都市整備事業に重点をおいた、最近にない大型予算となっている。

高齢者福祉の基盤整備、子育て世代の負担軽減、地域の活性化が図られるものと確信する。中村議員

森地区の市街地整備が、都市再生整備計画事業により大きく進展するものと楽しみである。

いよいよ森地区の長年にわたる課題の解決に向けて動き出すものと期待している。太田議員

水道事業会計予算

〔反対〕

市民の節水意識は高い。問題は遠州水道からの計画契約水量である。ダムを受け入れた森町としては、やむにやまれぬと思うが、契約水量そのものが高めである。それにより、災害時に重要な役割を果たす自己水源ポンプが休止・廃止されることは反対である。西田議員

〔賛成〕

トラブルには昼夜を問わず職員が駆けつけるなど、努力をしている。水道事業は安心して飲める水を、安全かつ安定的に供給することが最大の使命である。その使命を果たすための予算であることは、十分に審議された。亀沢議員

第一常任委員会

Q. 三倉小学校放課後子ども教室は3階を使用するが、安全対策は？

A. 三倉小学校の3階の教室しか確保できない。非常階段を利用して教室に通うが、指導により安全に使用したい。

Q. 国土利用計画森町計画(第一次)とは？

A. 国土利用計画は国・県・市町村がそれぞれ定めることになっている。町の計画は土地利用に関する行政指針となる。都市計画マスタープランが都市計画区域内の計画であるのに対し、国土利用計画は森町全体の土地利用計画である。

Q. 学校自慢づくりの成果は？

A. 泉陽中学校区では、花壇などがきれいになった。また、生徒自らトイレ掃除をするなど、積極性が出てきた。

森中学校区では、生徒が地域の防災訓練に参加するなど、地域と密着した活動ができた。旭が丘中学校区では、朝の読書の時間をつくるなど、家庭や学校で読書活動を進めた。

Q. 友田家補修の所有者負担は？

A. 所有者は「国の指定の文化財でもあるので守っていききたい」と、毎年交付される管理費を蓄え、負担している。

災害に強いまちづくり

Q. 森町安心で安全なまちづくり条例とは？

A. 一般に生活安全条例といわれるもので、警察から条例制定の要請があった。犯罪と交通事故の防止に特化した内容となっている。

Q. 学校での避難用シューターを使った訓練は？

A. 昨年、森中で実施した。避難用シューターのある学校では、1年に1回は訓練を実施したい。

Q. 自主防可搬ポンプの更新は？

A. 7年計画で70台、真空オイルなしタイプに更新する計画である。三倉地区から順次更新する予定である。

Q. 役場の宿直を外部委託する検討は？

A. 近隣市では警備保障もあるが、役場の業務を熟知していないのでサービスの低下につながる。また、コスト面でも高くなる。

Q. 愛光園サテライトの総事業費は？

A. 実施設計前の概算だが、3億3,000万円を見込んでいる。



避難用シューター（インターネットより）

第一・二常任委員会は、3月9日・10日・11日の3日間にわたり、本会議で付託された平成23年度予算などの議案について、審査を行いました。審査の主な質疑を報告します。

住みよらいまちづくり

新たな取り組み

Q. 新田赤松線の街路照明の内容は？

A. 遠江総合高校前から森駅に曲がる交差点までに、LED灯4基を電柱に設置する。県は校内に照明を増設する。

Q. 新東名開通イベント負担金は？

A. 23年度の秋から冬に統一イベント日を設け、インター周辺市町が開通イベントを行なう。

森町、掛川市は各100万円、県は400万円を負担する。

Q. 天方生活改善センターの耐震は？

A. 耐震補強が必要で、1,500万円の費用を見積もっている。

大型車の進入ができない場所にあるため、移転を含め、施設の必要性を地元と検討していく。

Q. 水田農業の今後の振興策は？

A. まちの農政は基盤整備を基本とし、規模拡大・用排水路の整備を土地改良区の事業により推進している。

今後は、レタス振興など、米以外の作物の検討もしていく。

Q. 有害鳥獣駆除委託料の内容は？

A. 計画捕獲頭数は180頭で、捕獲奨励金90万円（1頭当たり5,000円）、従事手当て126万円、箱わな借用料7万5,000円（15基分）、弾代4万円、合計227万5,000円を猟友会に委託する。

Q. 森地区まちづくり推進事業の内容は？

A. 本町以北、天宮、向天方、城下地区を地域に定め計画している。27年度までの事業で総事業費1,100万円。地域住民の意見を取り入れた具体的な事業計画の作成を、コンサルタントに委託する。

Q. 郷下線改築工事の内容は？

A. 児童・歩行者の安全のため、歩道を設置する。2ヶ年の事業で、総延長は1222m。23年度は40mを計画している。

Q. 都市計画税の課税区域の拡大は？

A. 条例により、公共下水道供用開始区域は課税区域となる。今後、下水道の区域が広がれば課税区域も拡大する。



水田を利用し生産したトウモロコシ

Q. 特定健診の見込みは？

A. 22年度の受診者は約1,600人だった。23年度の目標は400人増加の2,000人、受診率55・6%である。

第二常任委員会

町のたくわえ 17億7,300万円に

補正予算

一般会計ほか計5会計の補正予算を審議しました。

主な内容をお知らせします。

一般会計は、歳入歳出にそれぞれ6億7,670万5千円を追加し、22年度予算は69億6,534万円となりました。

町のたくわえである財政調整基金への積み立て5億円。

森町病院への繰出金1億6,000万円。(22年度の合計は5億4,000万円)

国民健康保険特別会計への繰出金500万円。

森川橋のグレートアップ(バルコニー等の設置)への負担金330万円。

国の交付金の追加を受け、小中学校の図書購入80万円。



安心・安全な暮らしを(放課後見守り隊)

条例

森町安心で安全なまちづくり条例

【制定】

安心で安全な暮らしを実現するための基本理念や、町・住民・団体の役割などを定めました。

【反対討論】

森町の実情にあった自主性が見られない。日本社会では当たり前の内容で、あえて条例化する必要はない。

亀沢議員

森町国民健康保険条例

【改正】

出産一時金は、国の少子化対策で23年3月末までの暫定措置として、38万円から42万円に引き上げられていましたが、4月1日以降も継続するように改正しました。

一般職の職員の給与に関する条例

【改正】

職員の宿日直手当を4,700円から5,200円に引き上げるように改正しました。

森町心身障害者小規模授産所の設置及び管理に関する条例

【廃止】

授産所もみの木は、障害者自立支援法に基づく運営を行うため、23年4月から社会福祉法人明和会が運営することになりました。それにもない条例を廃止しました。

公立森町病院の使用料及び手数料条例

【改正】

昭和53年以降改正をしていなかった診断書などの発行手数料などを、社会情勢や近隣病院の状況を踏まえ改正しました。

一般議案

国土利用計画森町計画(第二次)の策定

この計画は、森町の土地利用の行政指針となります。

役場内での検討会のほか、住民アンケートや策定委員会からの意見を反映しています。

指定管理者の指定

園田総合センターなど、7つの公の施設の指定管理期間が満了するため、引き続き同じ管理者を指定しました。

町道変更・認定

改築工事を行った町道谷田口線の路線を変更し、一部を中川組線として認定しました。

人事

教育委員の奥宮良治氏が辞職することとなり、後任に川地幸司氏(かわちこうじ)を任命することに同意しました。

意見書

国に対し、環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)交渉参加に関する意見書を提出し、慎重な対応をするよう強く要望しました。

3月定例会の審議結果

	議案名	審議結果	備考
人事	森町教育委員会委員の任命について	同意	全員賛成
条例	森町安心で安全なまちづくり条例について	原案可決	反対 亀沢議員
	一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決	全員賛成
	森町国民健康保険条例の一部を改正する条例について	原案可決	全員賛成
例	森町心身障害者小規模授産所の設置及び管理に関する条例を廃止する条例について	原案可決	全員賛成
	公立森町病院使用料及び手数料条例の一部を改正する条例について	原案可決	全員賛成
一般議案	国土利用計画森町計画（第二次）の策定について	原案可決	全員賛成
	公の施設の指定管理者の指定について（森町園田総合センター）	原案可決	全員賛成
	公の施設の指定管理者の指定について（森町飯田総合センター）	原案可決	全員賛成
	公の施設の指定管理者の指定について（森町三倉総合センター）	原案可決	全員賛成
	公の施設の指定管理者の指定について（森町大河内林業センター）	原案可決	全員賛成
	公の施設の指定管理者の指定について（森町一宮総合センター）	原案可決	全員賛成
	公の施設の指定管理者の指定について（森町天方生活改善センター）	原案可決	全員賛成
	公の施設の指定管理者の指定について（森町児童館）	原案可決	全員賛成
	東遠学園組合規約の変更について	原案可決	全員賛成
	森町道路線の変更について	原案可決	全員賛成
	森町道路線の認定について	原案可決	全員賛成

	議案名	審議結果	備考
補正予算	平成22年度森町一般会計補正予算(第7号)	原案可決	全員賛成
	平成22年度森町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	原案可決	全員賛成
	平成22年度森町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)	原案可決	全員賛成
	平成22年度森町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)	原案可決	全員賛成
	平成22年度公立森町病院事業会計補正予算(第4号)	原案可決	全員賛成
当初予算	平成23年度森町一般会計予算	原案可決	全員賛成
	平成23年度森町国民健康保険特別会計予算	原案可決	全員賛成
	平成23年度森町後期高齢者医療特別会計予算	原案可決	全員賛成
	平成23年度森町介護保険特別会計予算	原案可決	全員賛成
	平成23年度森町公共下水道事業特別会計予算	原案可決	全員賛成
	平成23年度森町大久保簡易水道事業特別会計予算	原案可決	全員賛成
	平成23年度森町三倉簡易水道事業特別会計予算	原案可決	全員賛成
	平成23年度森町大河内簡易水道事業特別会計予算	原案可決	全員賛成
	平成23年度森町水道事業会計予算	原案可決	反対 西田議員
	平成23年度公立森町病院事業会計予算	原案可決	全員賛成
意見書	環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）交渉参加に関する意見書	原案可決	全員賛成

一 般 質 問



太田 康雄

森町都市計画マスタープラン地域協議会が行われ、「地域のまちづくりの目標」がまとめられたが、この内容からも「森町まるごと博物館」という考え方がまちづくり、

昨年8月27日に行われた知事広聴で、川勝知事は「森町まるごと博物館」という考え方を紹介した。私は「森町まるごと博物館」とは、森町の歴史的建造物や史跡、各地に継承されている文化、山や川、茶畑や田園などの自然、農業や茶業、森山焼などの伝統工芸、古い町並みなど、森町のありのまますべてを博物館として提供することで、森町のまちづくりに活かせるのではないかと考える。

森町まるごと博物館！

これからのまちづくりに活かせるのでは？
▼都市計画マスタープランに盛り込めるか、検討したい



歴史・文化・自然が調和したまち

地域づくりに有効であると考えerがどうか。

町長 知事の発言は、あるがまが良く、春夏秋冬の景観自体が美術館であること、また、各地域で互いが協力してまちづくりをしていけば、やがて町全体が博物館になっていくという意味ではと理解した。

町では、平成21年度から3カ年で、都市計画区域内を中心に将来のあるべき都市の姿と、それを実現するための土地利用や都市施設等の方針を記述する都市計画マスタープランの策定を行っている。

平成23年度には、全体構想と地域別構想を合わせたマスタープランが出来上がる。そのなかで「森町まるごと博物館」というような表現を盛り込むことができるかどうか、今後研究・検討したい。



山本 俊康

インター周辺まちづくりは

都市再生整備計画事業への位置づけを！
その方向で努力する

問 住民と行政の協働で、インター周辺まちづくり検討会を開催している。

具体的な整備の推進には、都市再生整備計画への位置づけが必要だが、取り組みはどうか。

町長 22年度はこれまでの検討結果を踏まえ、基本計画案を作成した。23年度はさらに検討を重ね、都市再生整備計画の案を作成したい。

この計画は地区の目標を設定し、基幹事業と提案事業により、自由度が高く、創意工夫が活かせる**国の総合的な交付金事業**である。

なお、事業実施にはもう少し地域での塾度を高め、具体的な事業内容を詰めていく必要がある。

職員ボランティア

問 町職員のボランティア活動への取り組みは。

町長 文化会館の各種公演等で登録をした職員が駐車場整理、ホール誘導等を行っている。また、全職員が役場敷地内の清掃活動、管理職を中心に

親水公園等の草刈りを実施している。

地域に帰れば消防団、PTA、町内会活動に積極的に参加している。

ボランティア活動は、職員自身の視野を広め、住民からの信頼も高まるため、今後とも自発的な社会貢献の啓発に努力する。



魅力あるまちづくりに期待



鈴木 托治

森林の再生に向けて

町職員による間伐ボランティアは？
危険がともなうのでいかがか

問 手のいき届いた森林は、温暖化を防ぎ、川や海を浄化し、豊かな地下水を育む。しかし、木材需要は低迷し、林業家は生計を保てなくなり、森林は荒廃の一途をたどっている。

今こそ環境を守り、水源を守るという大義に立ち、役場職員が年1、2回の間伐ボランティアを実践する考えは。

町長 町では、国庫補助の流域育成整備事業、県単独事業のしずおか林業再生プロジェクト推進事業、森林づくり県民税を利用した森の力再生事業等で間伐を行っており、今年度はトータルで116.76ヘクタールを実施した。

民有林を対象に国・県・町が100%補助する事業もあり、森林組合が積極的に利用して間伐の推進を図ってきた。

間伐作業は素人には非常に危険である。先日一



間伐で明るくなった森林

23年度も140ヘクタール程度の間伐を実施する。

宮財産区の議員が管理作業中に死亡した事故があったばかりで、危険が伴う民有林の間伐等への職員ボランティアはいかがかと思う。

森町では山林が荒廃することがないよう、積極的に制度を利用し取り組んでいる



小沢 一男

周智高空き教室の利用を

特別支援学校・学級生の放課後児童クラブの会場としての利用を県に要請できないか？

▼今の段階で要請することはいかがかと思う

ている。

問 発達障害者向けの高校（特別支援学級）が、10月1日から周智高校跡でモデル事業を開始する、と報道された。

町長は、所信表明で「引き続き保護者のニーズに対応し、一層の子育て環境の充実を図る」と言っている。

現在、特別支援学校・学級に通う児童・生徒の放課後児童クラブ（どんぐり）は、専用の会場を持たずに運営している。旧周智高の利用を県に要請できないか。

また、それができない場合でも、他の場所に専用の会場を確保する考えはないか。

町長 現在どんぐりは、保健福祉センターの機能回復訓練室などを使用し

はいかがかと思う。

また、どんぐりの会場についてはアンケートでは、半数は「単なる空いた部屋よりも保健福祉センターが良い」という意見であり、現段階では今のままの形態が良いと考えている。

県教育委員会は現在、特別支援高校開設の準備に追われており、今の段階で利用を要請すること
その他の質問
・新聞活用の実践
・認知症サポーター養成講座



現在「どんぐり」が使用している機能回復訓練室（保健福祉センター）



片岡 健

21世紀は観光の時代

森町の観光産業の見直しは？
▼観光基本計画の策定を検討していきたい



多くの人が訪れた観光ウォーク(城ヶ平公園)

21世紀は観光の時代である。観光はすそ野が広く、多くの分野に経済効果が波及し、雇用や税収などの増加をもたらす産業であると考えている。

当町においても、森町の資源・財産である自然、文化、歴史を活かしたグリーンツーリズムや民泊事業、農産物を活かした地産地消、地域の特長を活かしたB級グルメや特産品開発を一層推進していきたい。

新東名の供用開始を契機として、新たな観光施策の基本的な目標・指針となる観光基本計画の策定について、他市町村の観光計画の調査・研究も含めて、今後検討していきたい。

問 新東名の開通により、物流の利便性が良くなり、地域的な価値も上がる。

町長 森町への入り込み客数は、平成5年度に220万人だったが、17年度には87万人まで落ち込んだ。21年度には98万人となり、一時減少傾向にあったものが、近年は微増傾向となっている。

地域活性化の大きな要因となる観光産業の見直しをどのように考えているか。



榎原 淑友

東日本大震災の災害支援は

町の対応と被災者の受け入れは？
▼緊急物資の支援や町営住宅への被災者の受け入れを行った

問 3月11日に発生した東日本大震災に対し、森町が行った対応と被災者の受け入れ態勢は？

町長 3月15日に毛布1,000枚、仮設トイレ20基を福島県に、後日アルファ米などの食料4,500食を岩手県に送った。

被災者の受け入れ住宅として、町営住宅9戸分を確保し、原則1年間は家賃無償としている。3月23日現在で、1戸6名の受け入れを行った。

森町の人口が2万人を切った！

問 昨年10月の国勢調査の結果、森町は人口19,436人、世帯数6,127世帯であった。今後の見通しと対策は。



森町から被災地への支援物資の積み込み

町長 国土利用計画森町計画（第二次）では、新東名の供用開始等の人口増につながるプラス要因を踏まえ、平成27年には19,400人と設定している。人口増の施策を考える担当を置いて、具体的に検討することも必要かと思う。

スマートインターはどこのか？

問 森町PAへのスマート

インター設置の可能性と進捗状況は。

町長 交通量推計について、中日本高速と最終的な調整に入っているが、費用対効果や採算性などの問題により、設置については厳しい状況にある。設置可能となっても、利用時間の制限や運営経費の削減が求められる。

調整がつき次第、勉強会を開催し、地区協議会を設立、協議していく。



西田 彰

TPP交渉への対応は

森町の影響は？
▼損失額10億円、慎重な対応を望んでいる

問 TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）に対し、農業を基幹産業とする森町は、どのような調査・研究をしているか。

町長 今、TPP交渉に参加すべきか否かが政治の大きな争点になっている。TPPに関する経済的試算は内閣府、農林省、経済産業省がそれぞれ公表しているが、内容が異なっている。

農業センサスによる平成17年度の農産物生産額を品目別影響試算に当てはめた場合、森町では損失額として10億円、約25%の減少と推測される。当町にとって重要な問題であり、私も全国町村会の幹事として、慎重な対応を望んでいる。

今こそリフォーム助成を

問 昨年12月議会でリフォーム助成制度の創設について質問したが、「実施は考えていない」との答弁だった。

大災害により景気の先行きが不透明になっている。このようななかで「森町として少しでも打開の

道を探る」という積極性が求められている。再度住宅リフォーム助成の実現について伺う。

町長 12月議会での答弁のとおり、町民の生命財産を守るため、まずは耐震補強の促進に力を入れたい。この予算は補正を行っても全額確保したい。



TPPが実施されれば、乳製品にも大きな影響が...



中村 禮二

森町ブランドを全国へ

テナント出店で地場産品の販売は？
▼賃貸料の条件等が厳しいため、町が直接出店
することはあきらめる

問 新東名のスマートインターチェンジ設置と周辺の土地利用、およびパーキングエリアでの地場産品販売による森町ブランドの全国発信について、進展状況を伺う。

町長 スマートインターチェンジの設置については、平成17年度交通センサスに基づき、費用対効果や採算性を検証しているが、大変厳しい状況である。

周辺の土地利用については、設置に目的が付き次第、面整備を計り、整備手法を含め総合的に検討していきたい。



パーキングエリアでのテント販売

地場産品の販売については、平成21年度末、中日本高速道路(株)から施設の内容説明と出店募集があったが、賃貸料が高いため、町が直接出店す

ることはあきらめた。パーキングエリアでの観光リーフレットのスタンド設置や、季節限定でのテント販売は了解を得ているので、効果的なPRを検討していきたい。



亀沢 進

まちづくり拠点で旧街なかに

元静銀跡地はどうか？
▼都市再生整備計画事業が実現に向けて一番の近道になると思う。

問 ここ数年、多種にわたるまちづくり団体が形成され、情報交換や協働活動を促進するための拠点施設が必要と考える。シルバー人材センターが使用している元静銀建物を提案する。この建物は旧街なかの中心部にあり、まちづくりの拠点として最適である。シルバー人材センターには、使い勝手の良い場所を提供すべきと考えるがどう

か。

町長 提案の拠点施設は、多くの町民がまちづくりに参画できる公の施設として設置し、行政財産として管理していくことが必要だ。設置条例や使用料条例なども定め、幅広く検討していかねばならない。

旧静銀建物は耐震性、老朽化、駐車場などの問題がある。シルバー人材センター事務所の処遇も合わせ、現在のところ他に施設を貸し出す状態にはない。

問 全国まちづくり交流会の候補地に挙がるほど、森町はまちづくりが盛り上がってきている。旧街なかの活性化を考え、当施設の活用を早期に検討すべきでは。

町長 平成23年度より、天宮地区を主とした都市再生整備計画事業を実施する。ソフト事業には森地区も含まれているため、旧児童館等周辺施設の利活用も含め、整備が検討できる。静銀跡地に拠点施設を作るとい

意がされるならば、都市再生整備計画事業での整備が、実現に向けて一番の近道になると思う。

都市再生整備計画事業とは

市町村が作成した都市再生整備計画に基づき実施される事業に対して、交付金が交付される制度です。市町村の裁量性が高いため、地域の創意工夫を活かした総合的・一体的なまちづくりを進めることが可能です。

みんなのこえ

災害に備えたボランティア活動

災害ボランティア森町



災害ボランティア森町は、静岡県が主催する「災害ボランティアコーディネーター養成講座」の修了者が、平成19年に立ち上げた40数名のグループです。

副代表の中村繁治さんを中心に、月1回孤立化が予想される集落等の巡回、森町の地形や防災計画の勉強、先進組織や県西部危機管理局の指導・助言を得ての紙上訓練等を行っています。
きっかけは、東海地震で森町が被害を受けたとき、応援に来てくれるボ

ランティアと住民の橋渡し役をして、効率的な救助活動ができるようにしたいと思ったことです。それには、まず自分の身を守り、一朝有事の際に役立たなくてはなりません。

今回の大震災を見て、私たちは後方支援を主体に活動するつもりです。

森町や社協の格別なご理解とご支援をいただいておりますので、地道に取り組みたいと思います。

代表 岡田 隆男
副代表 中村 繁治



もりまち議会だより第47号 平成23年5月15日発行

発行 静岡県森町議会
編集 議会だより編集委員会

議会を傍聴してみませんか

町議会は町の予算や身近な問題について話し合う大切な会議です。
あなたも議会を傍聴してみませんか？
●手続きは住所・氏名・年齢を書いていた
ただけです。
●お問い合わせ先…議会事務局
電話 0538-85-6329

<3月定例会の予定>

6月13日（月）本会議 初日
6月15日（水）常任委員会
6月17日（金）本会議（2日目）
6月24日（金）本会議 最終日

※会議の開始時間は午前9時30分です。
※日程が変更される場合もありますので
ご了承ください。

〒437-0293 静岡県周智郡森町森2101-1
TEL 0538-85-6329 FAX 0538-85-6044
http://www.town.morimachi.shizuoka.jp/
E-mail: gikai@town.morimachi.shizuoka.jp

議長 大場孝伸
委員 長 鈴木晃
委員 長 鈴木晃
副委員長 西田彰
委員 長 太田康雄
委員 長 中村禮二
委員 長 鈴木托治

議会だより編集委員会

あの 一般質問 どうなったのやあ～

【平成22年9月定例会】

Q 安心安全の町づくりは？

生活安全条例を制定するべきと考えるがどうか？

A 条例の制定を検討する

住民の意識向上を図るうえでも、条例の制定は必要である。3月議会をめぐりに検討する。

生活安全条例を制定

平成23年3月定例会で「森町安心で安全なまちづくり条例」が議決されました。

ひとこと

今回の東日本大震災で「想定外」ということが繰り返して使われているが、そもそも私たち人間が自然の力を想定すること自体、間違っているのではないかとと思う。

私たちは、「自然とともに生きる」、「自然に生かされている」という謙虚な心に立ち返り、被災地の復興だけでなく、日本中のまちづくりをしていかなければと考えさせられています。(Y・O)

